

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100483		
法人名	有限会社 ケアサービスおちあい		
事業所名	グループホーム かんとう		
所在地	秋田市檜山川川口境11番17号		
自己評価作成日	平成27年11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaignokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成27年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くを流れる太平川は、春には桜が咲きほこりきれいな桜並木となり、竿燈祭りの時期は竿燈ばやしがかんとう周辺に聞こえてくるところに「かんとう」があります。開設して間もなく4年目を迎えます。認知症ケアに対する理解や対応等、認知症勉強会を月に1度開催しており職員の介護についての考えや振り返り・自己啓発に繋げています。入居者様の心に寄り添い安心して暮らして頂く様に心掛けています。また、出来る事を見極めその人らしさをさせる環境や雰囲気作りに努めており、ご家族様とも密に情報交換を行い信頼関係を築いています。地域とのかかわりを持ちながら、住み慣れた場所で人生の最後まで生き生きと楽しく過ごせる日々「家庭的で温かい雰囲気」「生きがい・尊厳」「人生を謳歌する」を大切にそんな人生のサポートを常に考え支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のそれまで生きてきた生活歴を尊重し、利用者が地域の中で大事にしている関係を継続しながら生活していけるよう職員が工夫を凝らしながら支援に取り組みしている。例え、利用者の希望することが一見すると職員の負担と思えることであっても、それを負担にとらえず、どうしたらその希望に添えるのか、どうしたら利用者の思いに寄り添えるのかを職員で話し合いながら、前向きに取り組む姿勢が伺えた。トイレでの排泄、入浴の誘導など日常的なところから気持ちよく生活してもらえるための取り組みの積み重ねにより、管理者が発信し、職員が意欲的に取り組んだ結果が利用者が過ごしやすい生活環境につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関やいつも目に付く場所に掲示しており、代表者や管理者・職員がユニット独自の理念を作り上げ共有している。共有する事で一つの目標に繋げ実践している。	法人の理念の他に各ユニットごとに職員が話し合っ て作った理念がある。「自由気ままに」生活してもら う理念を掲げているユニットでは、一人ひとりのペ ースを尊重したり、利用者が何かを決める際は選択 肢を複数提示するなどの工夫が見られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	竿燈祭りの時期が近づくと隣の公園で練習が行わ れており、祭りの際は施設の駐車場で竿燈を披露 してくれている。また、救急蘇生講習会をホーム内 で開催するお知らせなどを地域に発信している。	事業所の駐車場に竿燈が来てくれたり、地域のお 祭りの準備に職員が参加し、お祭りに利用者とい 緒に見に行くなど、地域との交流がある。事業所の 救急蘇生講習会には町内会長と民生委員の参加 もあり、地域に貢献する活動も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝 え、地域貢献している	運営推進会議等を開催しながら今後も認知症の方 への理解や支援の方法を地域の方々に伝え、地域 貢献していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	入居者様の状態やホームでの普段の生活の様子を 報告している。町内会長・民生委員・入居者様ご家 族・包括支援センターの方々からの意見を頂き運営 の参考にし、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議で地域包括支援センターから研修や 講座の情報提供があったり、家族から散歩の機会 を増やして欲しいといった要望などあった場合は、 都度、職員間で周知し、研修やサービス提供の実 施につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と密に連絡を取っている。積極的に事業 所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協力関 係を築いている。	生活保護受給者が利用しているため、毎月市に出 向いて状況報告をしたり、権利擁護サポートセン ターから職員が状況確認に来るなど、助言を得やす い関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会や随時カンファレンスを開催している。研修などで身体拘束の理解を深めるなどし、身体拘束を行わないケアに全職員で取り組んでいる。	現在、身体拘束の対象となっている利用者はいないが、外部研修には毎年職員が参加し、その内容を内部で伝達研修している。ただ、身体拘束に関するマニュアルに様式等は整備されていない。	身体拘束がやむを得ず必要となった場合にその必要性や期間を記録する様式や、家族から同意を取る同意書等、様式関係をマニュアルの中に整備されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待等の研修に参加し内容を内部研修として報告している。不適切なケアが無いように日々職員同士で意識しながら注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様、数名権利擁護の制度を利用している。管理者や職員は秋田県認知症グループホーム連絡会の研修に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書の内容を説明している。不安や疑問があれば、その都度親身になり対応し理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族様が気兼ねなく話し合う環境・雰囲気作りに努めている。面会時、状況報告を行いご家族様の要望・意見を運営推進会議やカンファレンスなどで話し合い運営に反映している。	家族から外出の機会を増やして欲しいと要望があった際、事業所ができる範囲で外出できるよう支援している。また、月命日に墓参りに行くことを希望している利用者の声にも応えるなど、要望があれば都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや職員会議などで気軽に提案できる様に意見や要望を汲み取る様に努力している。運営推進会議に議題としてあげて運営に反映している。	職員からは積極的に意見や提案が出ており、行事の提案や備品の購入の他、勤務時間の調整等、業務の効率化に対する提案もある。職員が提案する際は明確な理由を提示するなど、人材育成がなされている面も伺われた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価チェック・職員の努力や実績・勤務状況を把握し資格取得へ向けて促している。個々が目標を定めて向上心を持って働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者は職員一人ひとりの力量を把握し、レベルにあった研修の機会を設けている。月に1～2回内部研修を開催している。外部研修へ参加しスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・管理者は秋田市認知症グループホーム連絡会に参加し相互訪問等の交流を図る事でよりサービスの質の向上とモチベーションアップのきっかけとなっている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のお話に耳を傾けて受容・共感し信頼関係を築いている。事前にご本人の人となりを聞きお話の中でキーワードを調べる事でより良い関係作りに繋がっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問等でご家族様の様々なご要望に耳を傾けている。入居されてからの生活の様子などをお知らせするなどサービスを開始してからもご家族様と連携を密にし関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを行い、ご本人の出来る事・出来ない事を見極めている。ご本人の体調に合わせて、食事の準備や盛り付け、洗濯たたみなどを一緒に行う事で関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方々が面会に来られた際には近況の報告を行っている。家族交流会を開催するなどして共にご本人を支えていく関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がホームを訪れる機会が多く、談話室や居室などで安心して過ごされている。馴染みの方との関係が途切れない様にご本人の体調が良ければ外出を勧めることもある。	毎月、昔から通っている美容室に行ったり、月命日に墓参りに行くなど、馴染みの関係を大切にする支援を行っている。家族だけでなく、元同僚の訪問もあり、昔からの関係が継続できるよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないように周囲との関係に配慮しながら声をかけたり、入居者様同士の相性等を把握し職員が間に入り支える様な支援に努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も介護に関わる相談を受け入れている。地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連絡調整している。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月モニタリングを実施しご本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合にはケアカンファレンスを開催しご本人の思いに寄り添い対応している。	入浴時や居室に2人になった時など、本人が話しやすい雰囲気を作っている。また、ケアカンファレンスを行う際も、本人の生活歴に立ち返り、その生活歴を尊重した上で本人がどのように生活していきたいのかを考えるようにしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様からこれまでの生活歴をお聞きし把握に努めている。ご本人の生活歴を可能な限り継続し入居者様個々のスタイルで生活が送れる様に経過の情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホーム内独自に作成した申し送りファイルを活用し、24時間の心身の状態の変化を分かりやすく記入している。特にご本人がお話しされた会話文を記録に残し一人ひとりの現状把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、朝の申し送りや少しの時間を使用しケアカンファレンスを行っている。また、ご家族様にも現状を報告や確認を行い、ご本人・ご家族様の意向を踏まえて介護計画を作成している。	朝の申し送りで必要に応じてケアカンファレンスを行い、毎月の全体会議では全職員でケアについての話し合いを行っている。プラン更新時には面会時の他、電話や手紙で家族の要望を聴き取るようにしている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等を申し送りに記入し些細なことでも情報を職員で共有している。早急な場合は、朝・夕の申し送りに居る職員で対応相談し合い、管理者に報告を行い実践している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での季節の催し物に合わせてスケジュールを立てている。ご本人が心身のリフレッシュができ、安全で豊かな暮らしを楽しんで頂ける様に支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医、薬剤師等の確認を行い、ホームでの提携医療機関を合わせて紹介し、ご本人・ご家族様に選択して頂き希望にそった支援を行っている。	入居前のかかりつけ医を受診している利用者は2名おり、かかりつけの歯医者を受診している利用者もいる。職員付き添いで通院した際は、治療の変更の有無に関わらず、通院結果を家族に電話で報告している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師のバイタル測定や入居者様の状態を確認している。緊急時には相談し協力医療機関または主治医へ報告し指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はワーカーや看護師と連携を図り、ご本人だけでなくご家族様とも十分に話し合いながら対応を行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携を十分に取しながら、重度化や終末期の可能性がある場合はご家族様と今後の在り方を検討している。	家族の希望でホームで看取った事例がある。看護師や医師との連携の他、管理者と職員間で定期的な連絡体制を取ったり、隣のユニットからの応援体制を取るなど、協力体制を整えたことで、家族も職員も気持ちを一つにして看取ることができた。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや連絡網を作成し備えている。また、内部研修で定期的に救急法を勉強し実践力を身に付けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを整備し、火災避難訓練(夜間想定を含む)を年2回行っている。今後、火災避難訓練以外の災害時の訓練も行う。今後も地域の方々にも協力を頂き、対策を練って行きたい。備蓄リストを作成し災害に備えている。	避難訓練の後は反省会を行い、災害発生の際の優先順位などについて確認している。また、消火訓練には町内会長が参加したり、近所の民生委員に駆け付けの依頼をするなど、地域住民の協力も得ている。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活ペースを尊重し、見守りを中心としたやりすぎない対応を心掛けている。自尊心を傷つけない敬意を持った声掛けに努めている。時に、慣れ合いの声掛けになっている事が見受けられる為、その都度指導している。	排泄の兆候が見られる利用者には、小さい声で声掛けするなどさりげなくトイレ誘導し、自尊心を傷つけない対応に努めている。また、誘導に応じにくい利用者に対しても無理強いすることなく本人が自ら動けるよう職員間で話し合っ工夫している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を表現しやすい環境・雰囲気作りに努めている。職員のペースではなく、入居者様のペースに合わせた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースでゆったりとして頂ける様にしている。日中も居室で過ごされる方もいれば、ホールで過ごされる方もいます。ご本人の気持ちを大切に希望にそって支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時には身だしなみの介助、更衣の際はご本人の好みに合わせた衣類と一緒に選択している。定期的に訪問理容を利用し、その人らしいおしゃれが出来る様に支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る事を把握し、調理・盛り付け・配膳・後片付けを職員と一緒にしている。食事時の会話を通して好みを確認している。また、行事食を取り入れるなど季節を感じて頂ける様に支援している。	献立は両ユニットの内容を確認し、食事の内容に差が出ないように配慮している。料理が得意な利用者には得意料理を作ってもらったり、広告を見せて食べたい食材を選んでもらうなど、食事を楽しみが持てるよう工夫している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎食ごとに記録を行い健康状態の把握に努めている。看護師よりかかりつけ医へ都度状況報告行い、指示を受けながら一人ひとりに合わせた量や形態を提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に合わせて声掛けや見守りを行い清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、声掛けや誘導に配慮しトイレ誘導を行っている。また排泄パターンや習慣を活かしてトイレでの排泄や自立に向けて支援している。意思疎通の困難な方には排泄パターン以外にも表情等を見ながら誘導し支援している。	日中は極力おむつの使用を避け、立位保持が困難な場合は職員2名でトイレ介助をしたり、排泄パターンの把握で失禁を減らすなどし、トイレで排泄することで気持ちよく過ごしてもらえるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数・量・性状を記録して早めに変化に気付く様に観察している。便秘予防には乳製品や繊維質の料理等を提供したり、ラジオ体操などを行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	都度バイタルチェックを行い、個々の体調や希望に合わせた時間帯での入浴を提供している。ゆっくりと入浴できる雰囲気作りに努めている。	入浴を好まない人でも、少しでも快く入浴してもらえるよう好きな曲を脱衣所にかけたりするなど、人によって声掛けの仕方を工夫し、不快感が残らない誘導で入浴が気持ちよいものとなるよう努めている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、落ち着いて休める様、自室やホールのソファで休息できるようにしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容・目的・用量・用法を個々の処方箋ファイルにつづり職員がいつでも確認できるようにしている。受診（訪問診療）時に変更があれば全職員に申し送りし把握に努めている。また、個人記録に説明書を添付し把握できるように努めている。薬剤師による薬の研修会へも参加している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し生活歴・嗜好品・楽しみ事等を全職員で理解し、一人ひとりに合ったアクティビティを提供しメリハリのある生活を心掛けながら支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・散歩・買い物等、希望を取り入れて一人ひとりのペースに合わせて外出支援に努めている。天気が良く過ごしやすい日には声を掛け近隣公園を散歩するなどリフレッシュを心掛けている。また、ご家族様にも外出・外食に協力して頂いている。	公用車は1台しかないので、一度に全員の外出は難しいが、利用者の希望に応じて個別対応するようにしている。また、大人数で外出する時は何度も往復して送迎をするなど、出来る範囲で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方には、ご自分で管理して頂いている。買い物の際、個人の力に応じてお支払いが出来る様に支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて電話を使用している。また、困難な際は職員が電話番号を押して対応している。手紙やはがきのやり取りをされ馴染みの方と連絡されている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせた壁画や置物を飾り、季節感を出している。共用の空間は温度・湿度・臭いに配慮し適度に換気・消毒に努めている。季節の花を置き居心地良く過ごせる環境作りを工夫している。	リビングは広々としており、日差しが入って明るい空間となっている。利用者が作った刺繍の作品や利用者の家族と一緒に作った作品が飾っており、季節感のあるあたたかな雰囲気を演出している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、入居者様同士気兼ねなく過ごせる様に配慮している。また、気の合った方同士で思い思いに過ごせる環境作りを工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やご家族の写真、思い出の品等ご本人が見覚えのある物を置き、心地良く過ごせる居室にしている。	ベッドや室温計は備え付けであり、温度や湿度を管理することで利用者の健康へ気遣いが見られる。仏壇を置く利用者もおり、利用者の思いを大事にしていることが伺える。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどには分かりやすい様に掲示している。また、廊下・トイレ・浴室等に手すりを設置し安全に自立した暮らしを送れる様に工夫している。		